# 2 石 器 時 代

になると、旧石器もだいぶん形がととのいました。新石器時代はわが国では縄文時代からです。 が国では、 り新石器時代は一万年前から始まります。旧石器時代はずいぶん長い時代でした。しかしわ 石器時代は旧石器時代と新石器時代とに分けられます。旧石器時代は二百万年前から始ま 旧石器は数十万年前からのものしか見つかっていません。この時代のおわりごろ

芝崎山の槍先

なものです。サヌカイト製

左の写真で見るとおり大き

ますが、こんなに大きなものはめったにあで完全。石槍は名古山や辻井からも出てい

之崎山

大歳神社や行者堂のある山

#### サヌカイト

運ばれてきたのだろう。 山 (大阪府)。数万年前こんな所からら近い所でも五色台 (香川県)、二上・サヌキ石ともいう。産地は姫路か

長さ一七・四㎝ 幅六・七㎝ 考古学では尖頭器という。 投げつけました。的がはずれて獲物は逃げことになります。獲物を見つけてこの槍をにきて、シカやイノシシを追いかけていた。

りません。採集したのは八代緑ヶ丘町に住りません。採集したのは八代緑ヶ丘町に住む。これが旧石器なのか、縄文期に作られた新石器なのか、意見の分かれるところでた新石器なのか、意見の分かれるところでしてもよさそうです。

「大大学のでは、 「大学のでは、 でいた槍を皆でさがしばじめます。 でいた。 でかき分けかき分け、 でかます。 でから見て旧石器と でも見つかりません。 特大の特にだいじに でいた槍なのに。 でかます。 でみるのですがとうとうある。 でから見つけてこの槍を になって見つかったのです。



ました。すぐさま次の槍を投げつけ、こん

### 石斧もあった

こぼれています。とかし歯が少しを掘ったりする道具です。しかし歯が少しの柄をとりつけて、木を叩き切ったり、土の柄をとりつけて、木を叩き切ったり、土工六年六月八日に採集しました。河原石二十六年六月八日に採集しました。河原石

りあっているからです。しかしこの石斧はいてもはっきりわかりません。遺物が作らいてもはっきりわかりません。遺物が作らいを見なければなりまれた時代をしるには、発掘調査によってどの地層から出てくるかを見なければなりません。地表での採集品は各時代に作ったものところでこの斧は縄文時代に作ったものところでこの斧は縄文時代に作ったものところでこの斧は縄文時代に作ったもの

おおかたの見方です。作りから見て縄文時代のものだとするのが、

て帰ったのでしょう。
時代に人が何かするために、この山へ、こ
いながっているのです。だ
の斧をかついでやってきているのです。だ
のだをかついでやってきているのです。だ

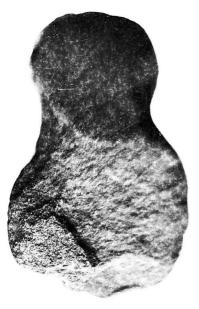
見失なった 縄文時代になると弓矢を発明 矢じり しました。弓矢という飛道具 ができると、狩の能率はぐんとあがります。 鳥も射落せます。それで縄文人は矢じりを 鳥も射落せます。それで縄文人は矢じりを のこようけんのか にようなけんのか になると、彼のによい道具ができたので はいっしょうけんのか になると、他によい道具ができたので

## 芝崎山・東光寺山・八代山

い。 代の文書には芝崎山の名だけしかなの名でよんでいる。ところが江戸時の名でよんでいる。

東光寺山は今の東光寺山霊苑の山東光寺所有の山なので、その名がが東光寺所有の山なので、その名がが東光寺所名の上まで東光寺山という

『英 城記』(→65P)には八代山『英 城記』(→65P)には八代山



#### ▲分銅形石斧

河原石をあらく打ちかいている長さ一〇㎝ 幅六・五㎝

正信君 この二つの時代の矢じりが東光寺山や芝崎 5は加藤史郎君 (当時西高生)、4、 山に落ちていました。次の図の1、 (当時姫高生) が採集したものです。 6は松本 2,

2 大歳神社の東で同年三月四日に。完形で精巧。 東光寺山山頂で昭和三十四年五月二十四日に採 部欠けているが作りは非常に精巧。

5 4 行者堂の北西で三十四年に。 芝崎山南斜面で。 先が欠けている。 3

芝崎山南斜面で三十五年五月一日に。

この方面は狩場だったのです。

6

芝崎山南斜面で。

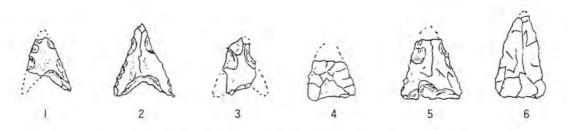
片面はほとんど加工なし。

うわけでこの山は、 六本のうち1、 6は弥生期のものと考えられます。 こうい 2, 縄文時代からよい狩場 3は縄文期、 5

だったようです。 行ったことがありますが、 スのネットを持って、この山へウサギ狩に 昭和十年頃のこと姫路中学の有志がテニ 昭和になっても、



こんな石斧も見つかっている



東光寺山と芝崎山で見つかった石の矢じり『姫路古代誌』No.12より